

令和6年度本庄市地域ケア会議

1 地域ケア会議全体像

会議	地域ケア個別会議	地域ケア課題整理会議	地域ケア推進会議
機能	何らかの課題を抱える高齢者を支援し、課題を解決するために様々な専門職と一緒に自立支援・重症化予防について検討。個別事例の課題解決の蓄積により地域の課題を把握することも期待される。	地域ケア個別会議で把握された地域の課題について整理。課題を解決するために既存のサービスや資源の有効活用や、新たな資源の開発等について検討。	地域ケア課題整理会議で検討した結果、新たな事業化や施策化を行う必要がある場合に検討を進め、介護保険事業計画等に位置づけるなど政策へ結び付ける。
出席者	<ul style="list-style-type: none"> ・地域包括支援センター職員 ・アドバイザー（医師・歯科医師・薬剤師・管理栄養士・歯科衛生士・理学療法士） ・民生委員 ・生活支援コーディネーター ・本庄市担当職員 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域包括支援センター職員 ・生活支援コーディネーター（第1層・第2層） ・第2層生活支援体制整備協議体 ・課題整理会議の検討に必要な専門職 ・本庄市担当職員 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域包括支援センター運営協議会委員 ・地域包括支援センター職員 ・本庄市担当職員
開催頻度	各圏域ごとに4月～12月まで毎月1回	各圏域ごとに年1回	市全体で年1回

2 地域ケア個別会議の実施報告

	回数	事例数
西	7	13
東	7	14
南	7	13
児玉	7	13
合計	28	53

3 地域ケア課題整理会議の実施報告

分類	地域の課題
課題別	【移動支援】【移動支援に関して】【移動支援や男性の活躍の場について】
	【専門職の活用や人生会議(ACP)について】
	【行政サービス及び専門職との連携について】
	【集いの場や外出手段について】【集いの場に関して】
	【若年の方の集いの場】【移動支援や男性の活躍の場について】
	【訪問によるフレイル予防等の啓発】
	【地域主体の見守り】【ボランティア等の地域での支援活動について】
	【認知症に関して】【認知症について】
	【介護負担の軽減】
【サービス導入前の専門職のアセスメント】	

4 地域ケア推進会議の実施報告

地域の課題	課題に対する対応・取組		
	地域包括支援センター	生活支援体制整備協議体	住民
<p>【移動支援】 【移動支援に関して】 【移動支援や男性の活躍の場について(一部)】</p> <p>【西・南・児玉】</p>	<p>・対象となる人には福祉タクシー利用券の利用ができることを周知する。</p> <p>・運転免許返納後の自分の移動手段を考える機会や、実現方法等を支援する場面を作る。</p> <p>・担い手候補や社会資源、地域住民のニーズ等の情報を生活支援コーディネーターと共有、協力して資源創出する。</p>	<p>・住民による移動支援の周知を行い、担い手を養成する。</p> <p>・はにぼん号の活用を促すため、乗車体験や予約方法の案内等の取り組みを継続する。</p> <p>・福祉施設の車両の空いている時間帯での活用の可能性について、第1層生活支援コーディネーターと協働で調査する。</p> <p>・移動支援の目的地は基本的に買い物や通院等の生活に直結する所を中心に考えられるが、例えば友人宅への訪問や趣味活動の為のお出掛け等、様々な目的で利用できるよう取り組みを立ち上げる段階から団体と一緒に検討していく。</p> <p>・免許を所持していない人も活動に協力いただけるよう、自転車や人力車のような乗り物を活用している事例について調査し研究する。</p> <p>・移動手段のみ支援するのではなく、付き添いや見守りも同時に担ってくれる取り組みの立ち上げを検討する。</p> <p>・住民主体の移動支援に興味を持ってくれた方と連携し、立ち上げや運営を支援する。</p> <p>・担い手の活動について知ってもらったイメージができるよう、ボランティアの体験会や勉強会の開催を検討する。</p> <p>・支援の担い手として協力が得られそうな方へアプローチしていく。</p> <p>・相乗りタクシー等、他市町村で実施している取り組みが本庄市にも取り入れられないか、第1層生活支援コーディネーターとも協働し検討する。</p> <p>・各サロン等で市の補助金を活用した住民主体の移動支援があることを周知していく。</p>	<p>・筋トレ教室やサロンに参加して、友人を作ることから始め、地域との繋がりを作る。</p> <p>・住民同士、趣味活動の集いに乗り合いで参加する。</p> <p>・地域住民での支え合いで送迎してもらう。</p> <p>・近所のつながりで乗せてもらう。</p> <p>・ボランティアに関する情報や、今後開催を検討予定の勉強会等の情報を周知し、積極的に参加してもらえるよう働きかける。</p>
<p>【専門職の活用や人生会議(ACP)について】</p> <p>【児玉】</p>	<p>・健康相談窓口の周知や健康の自己チェックし、自己管理能力を高められるような方法を検討する。</p> <p>・平均寿命と健康寿命がわかるチラシを作成し配布する。</p> <p>・ACPの講座開催やエンディングノートの配布を行う。</p>	<p>・ラジオ体操やウォーキングなどの健康増進を図る企画を計画していく。</p>	<p>・日頃から健康に留意していただき、定期健診等を受け健康維持・セルフケアに努めていただく。</p>
<p>【行政サービス及び専門職との連携について】</p> <p>【東】</p>	<p>・緊急時に備え、交友関係を含めた幅広いアセスメントを行う他、関係機関と連携し、世帯状況を把握・整理する。</p> <p>・住民向けにセルフマネジメント力が向上するよう専門職の協力を仰ぎながら働きかける。</p> <p>・介護保険外の相談や調整が必要な場合は、支援方針について行政各課をはじめとした多機関との連携を図る。</p>		<p>・「私の連絡先カード」等を活用し、緊急時に備える。</p> <p>・介護保険について正しく理解する(要介護状態にならないよう、また要介護状態になった後も能力の維持向上に向け努力する)。</p> <p>・健康寿命の延伸やフレイルなどを意識し、介護予防に取り組む。</p>

<p>【集いの場や外出手段について】 【集いの場に関して】 【若年の方の集いの場】 【移動支援や男性の活躍の場について(一部)】</p> <p>【西・東・南・児 玉】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・今あるサロン等を周知し参加を促していく。 ・仲間づくりの重要性を広報で周知する。 ・既存のサロンを訪問した際に、運営に関する相談があれば社協が協力してくれる部分もある事を周知していく。 ・総合相談・サロン訪問・民生委員との繋がりを通して、地域活動の立ち上げ・充実化に向け情報収集を図り、具体化に向け関係機関と連携する。 ・第2層生活支援コーディネーターと連携し、地域の集いの場に関する情報を集め共有する。 ・若年層の集いの場を開催できる人の発掘と活動支援を行う。 ・若年層がどのような集いの場を求めているのか、ネットやSNSを活用する等でニーズ調査する。 ・難病指定相談支援センター等の相談機関と連携を図り、当事者の集いの場の情報を収集し、周知する。 ・当事者団体と繋がり、情報発信のサポートをする。 ・病気の診断時に、病院(相談員)から当事者団体の情報提供を行ってもらえるよう連携する。 ・技ありボランティア等の活躍の場を周知し参加を促していく。 ・公園等の環境に関する住民の声を担当課へ情報提供する。 ・住民への介護予防に関する普及啓発を目的に「介護予防ケアパス(仮称)」の原案を作成する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・既存のサロンを訪問した際に、運営に関する相談があれば社協が協力してくれる部分もある事を周知していく。 ・一般住宅を会場とするサロンの立ち上げの検討について、所有者とコンタクトを取り、立ち上げまでの段取りや運営方針等、高齢者福祉課や社協とも連携しながら支援する。 ・歩いて行ける距離で様々な建物での集いの場が開催できるよう、立ち上げを支援する。 ・学校の空き教室を会場として借りる事ができるかコンタクトを図ってみる。 ・地域で気軽に集まれる場についての充実化を図る(ラジオ体操の継続や新規立ち上げ等)。 ・(サロンに比べて)会場確保がしやすいラジオ体操について、立ち上げを支援する。 ・センターと連携し、地域の情報収集や担い手になり得る住民等の情報を共有する。 ・生活支援サポーター等の修了者に具体的な内容を伝えながら協力者を集い、新たなサロンの立ち上げや既存のサロンの協力を依頼する機会を検討していく。 ・当事者団体と繋がり、情報発信のサポートをする。 ・幅広い年齢層で共通の関心が高い食のイベントやマーケットの情報提供を行い、参加することで若年層でも繋がる機会を設ける。 ・健康マージャンなどの若年層にも関心の高い既存のサロンを周知する。 ・病気・障害がある当事者の方の中で、リーダーになれる方を支援し、場を作るための支援を行う。 ・「介護予防ケアパス(仮称)」作成協力や地域への周知。 	<ul style="list-style-type: none"> ・既存のサロンを訪問した際に、運営に関する相談があれば社協が協力してくれる部分もある事を周知していく。 ・男性や若年層にサロンの運営等の協力をお願いする。 ・ご夫婦で誘い合って参加していただく。 ・地域活動に参加し、介護予防に取り組む。 ・公園等、周辺環境の危険な箇所を報告。 ・インターネットやSNSを活用し、新年会などのイベントの周知を行い、参加を呼びかける。 ・脳卒中片麻痺当事者の会、オンライン交流会に参加する。
<p>【訪問によるフレイル予防等の啓発】</p> <p>【西】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・フレイル予防の重要性について、広報紙等で周知する。 ・栄養状態や食事摂取状況、体重や筋力などのスクリーニングを行うため、フレイルに関する既存の自己チェックを行い、フレイルに関する啓発をする。 ・介護予防出前講座での栄養講座やフレイル予防講座の受講について、サロン等への周知を継続する。 ・高齢者の栄養に関する講座を開催する。 ・フレイル状態の人に包括の保健師・看護師が医療機関と連携して受診勧奨する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・フレイルについての問題意識があるかを、アンケートや聞き取りにて把握する。 ・高齢者はどんな活動に興味があるかを調査し、徒歩圏内に興味のある活動の集いの場を作る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・健康を維持し、長生きするために何が必要か理解する。 ・フレイル状態、筋肉量を自己チェックする。 ・自治会館や公民館等の公共施設での訪問講座を受ける。 ・家族・友人・民生委員・自治会などの顔馴染みの関係性の中で健康意識についての情報共有を行う。 ・閉じこもりや外出ができない等の困りごとを本人が発信し、支援に繋がるよう、民生委員や近隣住民が訪問し、見守りや声掛けを行い、日頃から信頼関係を作る。 ・家事や日常動作も運動のひとつであるため、自宅でも意識して取り組む。

<p>【地域主体の見守り】 【ボランティア等の地域での支援活動について】</p> <p>【西・東】</p>	<p>・小中学生に登下校時などに気になる高齢者を発見したら、学校や身近な大人に知らせることを伝えていく。</p> <p>・地域の商店に高齢者に関する相談先であるセンターを周知する。</p> <p>・サロンや自治会行事等に出向き、住民からの気になる高齢者の情報を聞き取り、民生委員につなげていく。</p> <p>・気になる高齢者の早期発見と見守りのため、ウォーキングクラブ等に、高齢者の相談機関としてセンターがあることを周知する。</p> <p>・心配な高齢者に気付けるよう、気にかけてもらいたい高齢者の変化のポイントを学ぶ機会をつくる。</p> <p>・各種サポーター養成講座等に参加し、サポーターと顔の見える関係性を構築する。</p> <p>・公的サービスで対応できない相談については内容を精査し、生活支援課・高齢者福祉課・社会福祉協</p>	<p>・ひとり暮らしや高齢者世帯に定期訪問をすることで、相談しやすい関係を作る。</p> <p>・緊急安否確認アプリ(小島南自治会で活用)について、包括だより等で紹介し、他地域での利用拡大につなげる。</p> <p>・地域住民へサポーターの活動事例や支援内容について周知の方法を検討する。</p> <p>・支援者として活動できる住民を発掘し関係機関と共有する。</p> <p>・生活支援サポーターと地域ニーズのマッチングを進めるため、介護サービス事業所や医療機関等へ生活支援サポーターの活動について周知する。</p>	<p>・近所の方との輪を取り持つ。</p> <p>・自分がどうなったらSOSを出すのか、元気なうちから考えておく。</p> <p>・気になる人、近所の人の安否が気になる時どうしたらよいかを考える。</p> <p>・自治会、支会長会議等で地域の声を拾って、相談機関に繋げるような意識を持つ。</p> <p>・回覧板を渡す時に声かけをする。</p> <p>・地域での防災活動に参加し、顔の見える関係をつくる。</p> <p>・地域との交流を保ち、生活や心身状況の変化があれば周囲に相談する。</p>
<p>【認知症に関して】 【認知症について】</p> <p>【南・児玉】</p>	<p>・認知症サポーター養成講座の開催や認知症家族の会、オレンジカフェ等に参加する事により、介護者や地域住民の相談窓口としてこれからも機能していく。</p> <p>・状況によっては、介護サービスに繋いだりケアマネジャーに同行したりといった、実働的な支援も継続する。</p> <p>・各サロン等の集まりでの認知症サポーター養成講座等の開催や認知症相談窓口、センターの紹介等を行う。</p> <p>・市で行っている認知症の事業についてまとめたチラシ等の作成や、ケアパスを活用し周知する。</p>	<p>・介護者のちょっとした困り事に対応できるよう、ボランティアやサポーターとの支援のマッチング等の体制を整える。</p> <p>・ボランティアやサポーターの人数を増やし、地域での活動に取り組んでもらえるよう、声掛け・周知活動を行っていく。</p> <p>・認知症サポーター養成講座修了者等と活動の方法等を協議していく。</p> <p>・地域の見守り体制の構築について協議していく。</p>	<p>・認知症サポーター養成講座等、認知症に関する知識と理解を得られる場に参加してもらい、認知症の方とその介護者に心情的に寄り添える関係性を作れるようにする。</p> <p>・ボランティアやサポーターといった支援する側での活動に興味を持ってもらえたら、包括や協議体と協働し介護者の支援に当たってもらう。</p> <p>・散歩等の際の挨拶や雨戸の開け閉め、電気の点灯など、お互いに気にかけてもらう。</p>
<p>【介護負担の軽減】</p> <p>【西】</p>	<p>・高齢者に必要な食事の紹介や介護技術を学べるような介護者教室やサロン等への出張講座の開催、SNS等での発信を行う。</p> <p>・病院や薬局などに、センターのパンフレットやチラシを配置してもらい、介護に関する相談先を周知する。</p> <p>・中高生の介護体験の機会づくりへの協力を行う。</p> <p>・仕事と介護の両立のための制度について継続し周知していく。</p> <p>・介護者サロンの周知や、介護者同士で悩みなどを話し合える機会を作る。</p> <p>・レスパイト入院ができる医療機関の紹介ができるよう、病院とセン</p>		<p>・介護が必要になった時に、会社や事業所に、介護休暇等の相談をしたり、自分でも仕事と介護の両立のための制度について調べる。</p>
<p>【サービス導入前の専門職のアセスメント】</p> <p>【西】</p>	<p>・精神科の専門相談窓口や障害者基幹相談支援センター、総合相談窓口の周知を行う。</p> <p>・ケアマネジャーにケース対応の参考としてもらえるようケース対応の成功体験談を共有する。</p>		<p>・本人にアンケート回答(セルフチェック)をもらい、現状の課題等に気づいてもらう。</p> <p>・家族が医療や専門職の介入の必要性について理解し、受診につなげる。</p>

5 令和5年度の課題に対する令和6年度の地域包括支援センター及び生活支援体制整備協議体の活動報告について

	地域包括支援センター		生活支援体制整備協議体		
	R5年度の課題	課題に対するR6の活動	R5年度の課題	課題に対するR6の活動	
本庄西地域包括支援センター	<p>【緊急通報】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市の緊急通報システムの対象者の範囲が拡大できるとよい。 	緊急時に連絡する人がいない、連絡する方法がない方にはどんな緊急通報システムや支援体制があればよいか検討する。	緊急通報以外で活用できる民間サービス等の情報を、個別支援の中で必要に応じて情報提供した。	<p>①緊急通報ができるアプリを検討・導入する。</p> <p>②アプリの使い方を説明してくれる人を確保するとよい。</p>	<p>①②小島南自治会ではDX活動に取り組んでおり、自治会内で、スマホ教室の開催、緊急安否確認システムの利用を進めている。</p> <p>②小島南自治会内住民支え合い活動「まごころさぼーと」では、インターネットやスマホのお手伝いの支援にも取り組んでおり、出張サービスも行っている。</p>
	<p>【当事者の会】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・視覚障害者が、情報交換が出来たり、思いの共有ができる場があるとよい。 ・パーキンソン会の会本庄支部が立ち上がるとよい。 ・脳出血発症後に、在宅生活をしている方々が集い、気持ちの共有や情報交換ができる、当事者の会ができるとよい。 	病気や障害の理解を広めるための講演会などを開催する。	健康に関する講座として、あったかオレンジカフェで、薬局の薬剤師にご協力いただき、薬についての講座を行った。		
	<p>【ハラスメント行為のない介護現場】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ハラスメント行為がなく、介護や支援を行える社会になるとよい。 	<p>①違反行為に対しての対応を契約書に明示し、サービス利用前や利用中に説明する。</p> <p>②担当者会議やモニタリング訪問の都度、ケアマネジャーより適正な利用を促す。</p> <p>③ハラスメント相談窓口を周知するとともに、活用し対応を検討する。</p>	<p>①センターの利用契約書には明示があり、契約時には説明を行っている。</p> <p>②本庄西地域ケアサポート連絡会(R7.2月)にてハラスメントについての情報共有を行った。</p> <p>③西包括だよりR7年3月号にて周知を行った。</p>		
	<p>【認知症】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家族を対象とした、認知症の方との関わり方や、本人の意思の尊重についての対応などの情報発信や学びの場があるとよい。 	<p>①認知症と診断された方やその家族に対し、病院から相談先や認知症サポーター養成講座の案内をする協力を仰ぐ。</p> <p>②認知症サポーター養成講座を企業や自治会を対象に開催したり、年数回、休日に開催するなど必要な方が受講しやすい体制をとる。</p> <p>③認知症をテーマに小中学校で公開講座を行う。</p> <p>④認知症の方や家族の体験談集を作成する。</p> <p>⑤オレンジカフェのPRを強化する。</p> <p>⑥サロン等通いの場において、認知症チェックリストを実施し、併せて相談を受けたり受診先を紹介する。</p>	<p>①病院に向けての協力の依頼は行っていないが、病院相談員と連携を図りながら、認知症の本人やその家族への支援を行っていく。</p> <p>②一般を対象に西包括主催にて1回、休日開催(R6.4.29)した。(参加者24人)</p> <p>③旭小学校(R6.12.11)、本庄西中学校(R7.2.21)にて認知症サポーター養成講座を開催した。</p> <p>④オレンジウィークの中で、「認知症の本人の声」として、本人や家族等にメッセージを書いてもらい、掲示を行った。</p> <p>⑤オレンジカフェにはぼん、あったかオレンジカフェでの活動を年間スケジュールにしてチラシに記載し、参加者の増加につなげた。</p> <p>⑥チェックリストの実施はできていないが、協議体で民生委員を対象に認知症支援を含めた地域ニーズ把握のためのアンケートを実施予定。</p>	<p>①認知症サポーターがボランティア等に参加できるように活動を紹介する。</p> <p>②オレンジカフェ等を利用するための資源の発信・情報共有をする。</p> <p>③サロン等で、認知症の症状や介護体験談について学ぶ場を設ける。</p> <p>④認知症の方がいる家族の交流の場を設ける。</p> <p>⑤公共施設に認知症についての勉強コーナーとして、書籍を設置する。</p> <p>⑥住民によるボランティア活動の具体的な支援内容などを広報で発信する。</p>	<p>①認知症サポーターの活動として、認知症の方へのゴミ出し支援のマッチングを行った。</p> <p>②個別訪問時、はにぼん号の利用方法やオレンジカフェツアアの資料配布などを行い、案内した。</p> <p>③ふれあいサロン若泉にて認知症サポーター養成講座を開催し、認知症の症状などについて学んだ。</p> <p>④認知症家族の会でのお花見会や、介護者教室でのリフレッシュウォーキングで交流を図った。</p> <p>⑤公共施設への書籍設置はできていないが、オレンジウィーク時に、図書館にて認知症に関する書籍の紹介を行った。</p> <p>⑥西包括だよりR6.9月号にてチームオレンジの周知や活動紹介などを行った。</p>
<p>【老々介護】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・複数名のケアをしている世帯についての調査を実施や把握をして、必要な支援を行えるようにする。 ・老々介護でも、在宅で生活できるサービスを充実させる。 ・介護保険以外での泊まりの場があるとよい。 	<p>①介護者がリフレッシュできるような事業を行う。</p> <p>②福祉用具の活用や、介護の支援体制について周知をする。</p> <p>③地域で介護の関心を高めるため、介護者同士が集まって話せるような場を検討する。</p>	<p>①介護者教室としてリフレッシュウォーキングを年3回(R6.6月、10月、R7.3月予定)実施した。</p> <p>②あったかオレンジカフェにて福祉用具の展示相談会をR7.2.19に実施した。民協定例会にて福祉用具や住宅改修の利用について説明、紹介した。</p> <p>③認知症家族の会やケアラズカフェ、介護者教室などの周知を行った。</p>	<p>①家族会への参加を促す。</p> <p>②ボランティア等で介護者を支える体制を作る。</p>	<p>①サロン訪問時に認知症家族会の周知を行った。</p> <p>②地域たすけあい活動を行っている上里町「支え愛とおせっかい」、小島南自治会「まごころさぼーと」の2団体で、活動内容についての情報共有を行い、地域住民間での助け合い活動の充実について検討した。</p>	

	【コミュニケーション】 ・外国語(ポルトガル語)の 通訳者がいるとよい。	①外国人総合相談センター埼玉を活用する。 ②簡単な日本語を使ってコミュニケーションを図る。	①②外国人からの相談があれば、電話通訳等のサービスを活用したり、簡単な日本語や絵などを活用しコミュニケーションを図っていく。	通訳のニーズを把握し、ポケトーク、スマホアプリ等の翻訳機能やツールの活用を周知するとともに、翻訳アプリの操作サポートの学生ボランティアを地域の学校で募集する。	翻訳アプリ等の活用に向けて、スマホ教室の開催について検討する。まずは、指導者やボランティアの人材を確保すべく、スマホサポーター養成講座の実施についての他市の取り組みを情報収集し、第2層協議体で共有した。
本庄東 地域 包括 支援 センター	集いの場について	①本人/家族が負担なく行けるサロン、居場所があると良い ②年齢に縛られない地域の場があると良い ③男性専用の介護者教室や介護者サロンのような情報交換の場があると良い	①サロンが無い地域での集まりについての情報収集(堀田地区等)を行った。 ②子ども食堂の視察同行を行った。 ③総合相談において、男性介護者へオレンジカフェや家族会を紹介した。	①本人/家族が負担なく行けるサロン、居場所があると良い ②年齢に縛られない地域の場があると良い ③男性専用の介護者教室や介護者サロンのような情報交換の場があると良い	①～②幅広い年齢層をターゲットにできる場づくりができないか検討するため、市内子ども食堂を見学。気軽に集まれる場として、市街地2カ所でラジオ体操立ち上げを支援した。 ③はにぼんプラザで行われている「健康麻雀教室」等を見学した。
	専門職や介護予防に関する課題	①ケアマネジャーへの支援体制の充実 ②医療機関の理学療法士がデイサービスに来て個別リハビリ指導をしてくれると良い ③専門職の訪問があると良い	①ケアマネジャー支援について、市/包括で検討会議を実施。総合相談におけるケアマネジャーとの同行訪問を行った。 ②サービス事業所への情報提供や提案した。 ③歯科連携拠点/精神科訪問看護/ほみか(障害者基幹相談センター)との連携を図った。		
	認知症について	①男性向けオンライン認知症家族会があると良い ②認知症サポーター養成講座の開催(住民向け・若年代向け)、パトロールの見守り強化	①家族会(他市含む)の家族会やオンライン相談会のチラシ配布や周知を図った。 ②幼児/小学校/中学校/一般向け/サロン等で認知症サポーター養成講座を開催した。総合相談において、見守りが必要な対象者への見守り訪問を実施した。		
	その他の地域課題について	①第2号被保険者の支援体制が充実していない ③脳出血の既往がある方の就労支援と移動支援	①短期集中サポートサービスの紹介等、総合事業を紹介した。 ③生活困窮や就労相談について、生活支援課と連携を図った。	集合住宅在住でゴミ出しが困難	生活支援サポーターとして、地域住民によるゴミ出し支援を実施した。
	【健康管理の相談窓口に関して】 処方薬の服用や食事の栄養摂取といった、健康管理において重要な要素に関して、相談窓口がわからない。 【理由】 そもそもどこに相談すれば	①門前の調剤薬局では診察した医師と直接的に連携を図りやすい特徴があり、受診した後の相談・対応は可能。ケアマネからの相談にも対応可。こういった情報はまだまだケアマネに浸透していないと思われ、センターから情報提供する事で有用な社会資源である事を知ってもらうよう努める。 ②ドラッグストア内の調剤薬局は、普段の買い物に来るついでに相談する事が出来たり、市販薬についても情報提供出来たりと、日常生活での身近な相談窓口としての側面がある。こちらもケアマネに周知する為に、センターが情報を供給していく発信源となれば良い。 ③埼玉県薬剤師会の相談窓口が存在する事を紹介、案内する。	①②③圏域の連絡会で周知をしている。次年度の圏域の連絡会でも、テーマを決めて勉強会や情報交換会を予定したい。地域ケア個別会議では、事例提供するケアマネに対して、情報を提供していく。	①地域住民のニーズ把握の際、相談窓口がわからない方に対し上記内容の情報提供が出来るよう、相談窓口に関する情報の把握に努める。	①センターで把握した情報を共有し、地域住民に対して情報提供出来るよう体制を整えた。

<p>本庄南地域包括支援センター</p>	<p>良いかわからない。</p>	<p>④栄養状態や食事に関する相談だが、病院に受診されている方であればそこに属する栄養士に相談する事が出来る。</p> <p>⑤受診されていない方は一次予防的な相談として、保健センター内にある健康管理課の管理栄養士が対応可能であり、内容に応じて病院と連携を図る事が出来る。相談者は本人や家族のみならず、担当CMまたはセンター等も相談する事が可能。先述の薬剤に関する相談窓口と同様に、センターよりケアマネに周知を図っていく。</p>	<p>④⑤総合相談で、情報提供ができる準備をしている。ケアマネに対しても、圏域の連絡会で周知を予定している。</p>	
<p>【移動支援に関して】 移動(買い物・通院等)が困難な高齢者が利用出来る社会資源が少ない。</p> <p>【理由】 ・地区(字)によって利用出来る社会資源がまちまちである。 ・単純な移動支援だけでなく、付き添いや見守りといったボランティアも並行して探す必要がある。 ・支援の担い手が少ない。</p>	<p>①デマンド交通は未だに利用しづらいとの意見が多い(金額がわかりづらい、車種がバンかタクシーかの違いがわかりづらい等)が多い為、ケアマネが利用者に説明する事も想定し、事前にケアマネ会議や連絡会で勉強する機会を作るよう検討する。</p>	<p>①圏域の連絡会議で現場視察会を実施している。</p>	<p>①第1層協議体で取り組みを検討している、オレンジカフェの会場までの移動を乗り合いタクシーで支援する事業を活用する。</p> <p>②住民主体の支え合い活動に対する新しい補助金の支給が始まったため、今後新たな社会資源として、住民主体の移動支援事業の立ち上げについて検討していく。</p>	<p>①日常的な移動手段として乗り合いタクシーを導入するのは現段階で困難と判断。別の移動支援事業を検討する必要があると考える</p> <p>②本庄市の別の地域では地域住民が市へ登録し移動支援事業を開始した所もある。南地域でも協議体で当議題について話し合いを行っており、新たな社会資源として取り組みを立ち上げられるよう、今後も話し合いを継続する予定。</p>
<p>【認知症に関して】 認知症の方が地域で安心して生活する為の支援が少ない。</p> <p>【理由】 ・認知症に対する正しい理解が不十分。 ・介護保険以外での日常生活の中での支援者がいない。</p>	<p>①認知症状に関して、センターやグループホームが相談窓口になっている事の周知が不十分な為、チラシ等の配布や情報提供等実施し関係機関に周知していく。</p> <p>②一般のお店等に、市内のオレンジカフェについてのチラシを設置し周知を図る。</p> <p>③スーパーやディスカウントストア等の従業員に向けた認知症サポーター養成講座を開催したり、傾聴姿勢に関する勉強会等を実施したりして、認知症の方に対する理解を深めてもらえるよう取り組んでいく。</p> <p>④ケアマネと利用者を担当する民生委員が上手く繋がらない場合もある為、状況に応じてセンターが橋渡しを担うようにする。</p> <p>⑤“私の連絡先カード”を確実に所持・携帯してもらう為、周知を図っていく。</p>	<p>①相談者に対して、高齢者便利ガイドを活用している。</p> <p>②市内の大型商業施設であるドン・キホーテにチラシを置いてもらっている。</p> <p>③サポーター養成講座をいつでも開催できる準備は出来ている。</p> <p>④毎月の民生委員連絡会にはセンターが出席している。ケアマネからの問い合わせがあれば、担当課に確認し情報提供をしている。</p> <p>⑤総合相談では住民に、圏域の連絡会議ではケアマネジャーに、介護予防ケアマネジメント利用者にはセンターから周知を行っている。</p>	<p>生活支援サポーター登録者やボランティア登録者、地域の見守り等の支援者について情報を把握し、担当ケアマネが情報が必要とする際には生活支援コーディネーターやセンターを介して情報提供を実施する。</p>	<p>サポーター登録者の名簿は市より情報をいただきセンターで管理している。ボランティアセンターに登録されている方に関しては社会福祉協議会に問い合わせた情報を提供してもらおう。地域の支援者はセンターの総合相談対応や生活支援コーディネーターやセンターの中で知り得た情報を把握出来るよう努めている。いずれの方の情報についても、関係者に情報提供出来る体制を整えている。</p>
<p>【外出支援・集いの場】 ・自力での外出困難者の外出支援(付き添い)や地域交流の場があると良い。</p> <p>・買い物や通院のための移動手段が必要。</p>	<p>1.本庄たすけあいサービス(通院の付き添いができる)を周知していく。</p> <p>2.車の維持費を可視化する方法を検討し周知していく。</p>	<p>1.相談者や個別事例に対し相談内容によって、チラシを渡すなどして周知を行いました。</p> <p>2.令和6年9月発行のこだま包括だよりにて車の維持とタクシー利用料金を比較する内容を掲載し、関係機関へ配架やセンター事業等の際に配布し周知を行いました。</p>	<p>3.生活支援サポーターなどに対し外出・付き添い・コープの記入などボランティアの活躍の場の創設や募集方法や実際の活動について検討していく。</p> <p>4.地域交流の場へ外出支援方法を整えることを検討いく。</p>	<p>3.①本泉地区の住民主体の移動支援・買い物支援サービスの立ち上げを支援行いました。</p> <p>3.②本庄市で開催している、生活支援、認知症、はにとれりリーダー講座修了者にははにとれりリーダーやラジオ体操等の立ち上げなどの意向を確認する方法について協議を行い、令和7年4月に講座修了者との会議開催を予定しております。</p> <p>3.③令和7年1月発行のこだま包括だよりにて、地域活動について掲載し、関係機関へ配架やセンター事業等の際に配布し周知を行いました。</p> <p>4.はにぼん号予約の取り方講座の開催を検討したが、令和7年度より利用方法の改正があるため、来年度以降の開催を協議しております。</p>

<p>児玉地域包括支援センター</p>	<p>【認知症について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・認知症の方を地域で支える仕組みが必要。 ・誰もが気軽に集える場所があると良い。 ・介護サービスを利用していても、地域とのつながりが保てる地域づくりが必要。 ・独居高齢者の見守り体制・近所付き合ひ。引っ越して来られた方が地域との係わりを持てると良い。 	<p>5.①10月12日(土)に地域住民向け認知症サポーター養成講座を開催しました。</p> <p>5.②オレンジカフェ開催や認知症普及啓発イベント、認知症ケア相談室の周知等継続して行いました。</p> <p>6.②2月開催のウエルカフェだま内で認知症地域支援推進員による認知症講座を開催しました。</p> <p>7.こだまの森こども園様と協力しチラシの作成や関係機関へ配架やセンター事業等の際に配布し継続的に周知を行いました。</p>	<p>8.市民ポブラサロンやラジオ体操の周知や継続。ラジオ体操については、開催箇所の増加を継続して行い多世代の交流機会を検討していく。</p>	<p>8.①市民ポブラサロン、ラジオ体操の開催や周知を継続して行い、ラジオ体操開催箇所の増加は継続的に協議を行っております。</p> <p>8.②多世代交流、認知症予防を目的として、新たに児童養護施設桑梓にて、みんなの会議室(毎月2回健全麻雀)を開設しました。</p> <p>8.③ウエルカフェだま内で地域の皆様に夏休みの宿題を手伝う企画を2回、冬休みに地域住民を講師に招き編み物を教えてもらう企画を開催し児童と地域住民の交流を図りました。</p>
	<p>【介護者支援・終活】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護者同士の悩みを打ち明ける場所があると良い。 ・介護される人が亡くなった後の家族ケアがあると良い。 ・人生会議(ACP)を家族でできるようになると良い。 	<p>9.サロンや公民館活動に参加し、センターの周知や相談を聞く機会を作る。</p> <p>10.精神的なサポートが受けられる相談窓口のチラシ作成し周知活動を行う。</p> <p>11.人生会議、エンディングノートの周知活動を継続し、ACPの講座開催などを検討していく。</p>	<p>9.サロンを訪問しセンターの事業等について説明を行っております。</p> <p>10.令和6年5月発行のこだま包括だよりにて、精神的なサポートが受けられる相談窓口を掲載し、関係機関へ配架や包括事業等の際に配布し周知を行いました。</p> <p>11.①相談者や個別事例に対し本庄市で作成したエンディングノートの配布等を行いました。</p> <p>11.②11月のウエルカフェだまにて、人生会議を交えて生前整理等についての講座を2回開催しました。</p>	<p>12.精神的ケアが行えるような新たな交流の場づくりの検討して行く。</p>